

中長期(5年)計画

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は 3,000 人、公益財団法人日本学生航空連盟 OB 数は 10,000 人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。
 “安全”:国内滑空クラブと密接に情報共有し、安全意識を高め、重大事故発生を防ぐ。
 “楽しさ”:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を基礎技術習得である場周飛行とローカルソアリングから、本来の活動である野外飛行を推進し、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

平成 29 年度特記事項

滑空機事故リスト MG;動力滑空機、ST:サステナー 運輸安全委員会集計

発生日付	機種	搭乗	場所	状況	死傷者	
2015	2/1	Discus b 単	1	読売加須滑空場	着陸時機体損傷	
	4/26	SF34B 複	2	韭崎滑空場	着陸時機体損傷	
	5/1	G109B MG	2	高山市丹生川町	山の斜面に衝突	
	5/17	H36 MG	2	福島スカイパーク	着陸時機体損傷	
	5/30	DuoDiscus 複	2	霧ヶ峰滑空場	発航時墜落	2名重傷
	5/30	Discus bT ST 単	1	北海道浦臼町	場外着陸時墜落	1名死亡
	8/25	HK36TTC MG	1	美瑛滑空場	着陸時機体損壊	
	9/9	H36 MG	2	北見農道空港	着陸時機体損壊	
2016	3/17	フハッチ 複	2	千葉県栄町	墜落	2名死亡
	4/10	CA101B 単	1	熊本県阿蘇市	不時着失敗墜落	
	5/5	304CZ-17 単	1	福島県三春町	空中分解墜落	1名死亡
	10/10	LS4b 単	1	群馬県大泉町	墜落	1名死亡
2017	8/27	H36 MG	2	福島県福島市	墜落	1名死亡
	11/10	Discus CS 単	1	大野滑空場	発航断続後機体損傷	

*安全施策

- ・平成 27 年 6 月以後、その週に発生した事故を JSA 事務局より全国滑空団体に伝達し、週末飛行前のブリーフィングで紹介していただくことを実施している。
- ・平成 28 年 3 月のソアリング中の墜落事故以後、スピンの座学を受講し、少なくとも初動までを体験した人に、申請によりスピリカバリートレーニング受講章を発行しており、平成 29 年度末現在 335 名に達している。
- ・平成 28 年 10 月の単座機スピン事故以後、2004 年以後の死亡事故 14 件の分析結果から 9 件はスピンに起因しており、スピン事故を防ぐべく、速度管理が疎かになる状況でもストール速度に対するマージンを持

った速度で飛行するキャンペーンを行っており、各種会合で機会あるごとに説明を行い、墜落による死亡事故防止を図っている。終局的には滑空機の事故率を一段階下げることが目標とする。

- ・ (一財)日本航空協会の航空スポーツ統括団体が行う安全啓発事業に応募。
- * 丸山理事、当協会ホームページ担当者、草野事務局員の尽力で、10月1日付で当協会ホームページをリニューアルした。特殊 Web 操作技術なしに HP 掲載を行えるように変更するとともに、画面をダイナミックにした結果、閲覧数、特に若年層の閲覧が増えた。副次的には、JSA 事務所への電話による問い合わせが増加している。また、JSA への支払いを PayPal で可能にしたことに伴い、利用者が便利になるとともに支払手数料が不要になった。
- * FAI 公式立会人および日本滑空記章試験員の任期が来て更改を行った。FAI 公式立会人は 57 名から 48 名に、日本滑空記章試験員は 55 名から 67 名になった。任期は 2020 年末まで。
第 1 回就任講習会を 3 月 24 日航空会館で開催し、22 名受講。講習会は今後も継続する。

1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

1.1 各種外部委員会での活動

当協会は官公庁、航空界に対して滑空界代表として活動している。

- ・ 技量維持連絡会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事) 航空安全講習会企画運営の会議
- ・ 航空医学委員会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
- ・ 学科試験問題検討委員会(事務局 JAPA JSA 小野淳委員)
- ・ 裾野拡大プロジェクト(事務局 JAPA JSA 吉田正克監事)
- ・ 小型航空機等に係る安全推進委員会(事務局航空局 日口常務理事)

航空局が事務局の委員会が新設され、滑空界を代表して日口常務理事がオブザーバーとして出席している。平成 28 年 12/20 に初回、平成 29 年 3/28 に 2 回目、9/25 に 3 回目、平成 30 年 3/14 に 4 回目が開催された。

1.2 滑空スポーツ関連の調査

2011 年から始めた滑空スポーツ基礎データ(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動)調査、集計を継続している。2017 年度に実施した 2016 年度の調査は 44 団体に依頼し、35 団体からデータをいただいた。

年度	回答 団体数	所属 会員数	内 女性数	25 歳 以下	ライセン サー数	滑空機 機体数	飛行 回数	飛行 時間
2016	35	2,726	277	1,016	1,104	296	55,429	15,847
2015	36	2,975		997	1,380	325	56,158	16,721
2014	33	2,572	260	926	1,018	307	49,368	14,099

1.3 航空関係諸団体との連携

*滑空団体との連携

- ・国内滑空団体にメールで情報提供を行い、特に安全性向上に努めている。
- ・クラブミーティングを通じて滑空界全体の意向を理解し、活性化を醸成する。(日口常務理事)

平成 26 年から、有志滑空団体メンバーが大野(H26、11 月)、長野(H27、6 月)、板倉(H27、11 月)、角田(H28 11 月)、滝川(H29 10 月)で開催し、H30 10 月は久住での開催を計画している。初回で我が国滑空界を変えるには自ら動かなければならないとのコンセンサスを得た。当協会会員にかぎらず滑空スポーツ愛好家の情報および意見を伺い、当協会事業に反映するようにしたい。

***大学生愛好家が卒業後社会人滑空クラブへの入会を促進するための施策**

大学生の滑空競技会副賞として、有志滑空団体から体験搭乗提供をいただき、受賞者に滑空団体で飛行する機会を提供する施策を始めた。今年は(公社)日本グライダークラブ、(公社)長野グライダー協会、NPO 葦崎航空協会から体験搭乗機会のご提供をいただき、第 58 回全日本学生グライダー競技大会およびその予選である関東大会、東海関西大会の副賞として実施。(八尾理事)

***FAI (IGC)**

2018 年 3 月 Freudenstadt(独)で総会:Delegate 甲賀常務理事、Alternate Delegate 丸山理事が出席。・銀章 50 km タスクについて、クロスントリーゾリングの第一歩はどうあるべきかと言う概念の確認とルールの実運用性から毎年様々な提案があり、小改訂が続いていたが、ほぼ決着して 2018 年 10 月 1 日から施行される。・滑空スポーツの世界ルールである Sporting Code の普及に努める。NAC との関係業務一部を丸山理事が担当。

***航空スポーツ団体との連携**

・スカイスポーツフェスタ 2017 活動(SSF2017 事業は実行委員会で実施)

SSF2017 にほぼすべての航空スポーツ団体が加盟しており、この活動を通じて、連携を深めている。10 月妻沼滑空場でイベントを開催し、各航空スポーツ団体の特性にあわせて、地上展示、デモ飛行、体験飛行を提供する計画だった。6/19 実行委員会、10/22 イベント当日 台風が来て事前に中止した。

SSF 実行委員長 井上常務理事、JSA 実行委員:吉田監事、甲賀常務理事

***自衛隊、使用事業などとの連携**

平成 29 年 7/19 航空自衛隊入間基地 甲賀常務理事、玉中理事、篠原理事出席

平成 30 年 2/2 海上自衛隊下総基地 甲賀常務理事出席

・関東地方空域に関する連絡会を通じて連携を図っている。

1.4 情報発信:各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化策の実施

***ホームページ運営 丸山理事 事務局 渡辺翼、五十嵐健大**

2017 年 10/1 付でホームページ改変

***機関誌発刊(7、11、3 月、全 3 回) 編集長久田雅樹**

2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

2.1 指定航空従事者養成施設

***制度運営 設置者:後藤昇弘会長、管理者:鈴木元常務理事**

事務局長:玉中理事、監査人:谷口監事

・指定養成連絡会議 2/3(土)航空会館 本部および訓練所間の連絡会議

・養成実績

期	訓練所	訓練期間	実日数	入所	修了	備考
第1期	宝珠花	5/6-5/29	7日間	2名	2名	
第2期	板倉	6/25-7/22	8日間	2名	2名	
第3期	静岡	10/7-10/29	8日間	3名	3名	
第4期	関宿	11/4-12/3	8日間	1名	1名	
第5期	宝珠花	2/17-3/11	8日間	3名	3名	
第6期	大和根	3/4-3/24	5日間	1名	1名	

2.2 日本滑空記章制度

*運営:事務局

*技能証明実地試験細則改訂、特定操縦技能審査制度導入に対応し、規定を改訂する。インストラクターマニュアルとの整合を図る。

2.3 講習会・セミナー

くじ助成金(独立行政法人日本スポーツ振興センター)対象事業として実施。

(事務局、日口理事、各地で会員にスタッフとしてご協力いただいた)

・滑空スポーツ講習会：滑空スポーツの話題についての講演

期日	都市	会場	講師	受講者数
10/14(土)	大阪	ドーンセンター	茂田慶一	24
11/25(土)	福岡	福岡大学セミナーハウス	安達拓人 日口裕二	78
3/10(土)	札幌	大通青木ビル	丸山毅	23

・航空安全講習会

航空局通達に基づき、自家用操縦士の技量維持のための講習会として技量維持連絡会(航空関係5団体)と連携して実施する。

特定操縦技能審査制度が実施され、各滑空団体内の審査員が実施するようになり、有効期間が2年のため、理論的にはライセンスの半分が毎年受講することになる。

吉田徹:JAPA 副会長 最近の変更点、上田裕久、土方健次郎:ATEC 部長 VOICES について

期日	都市	会場	講師	受講者
9/9(土)	静岡	富士川滑空場	吉田徹、上田裕久、甲賀大樹	42
10/28(土)	広島	オフィスセンター	吉田徹、上田裕久、日口裕二	21
11/18(土)	東京	航空会館	吉田徹、上田裕久、甲賀大樹	43
12/2(土)	仙台	仙都会館	吉田徹、上田裕久、丸山毅	24
1/13(土)	名古屋	ABC 会議室	吉田徹、土方健次郎、櫻井玲子	49
2/4(日)	東京	航空会館	吉田徹、上田裕久、日口裕二	48

* インストラクターマニュアル委員会

我が国での滑空機操縦トレーニングに関する総合的なマニュアルが無いので、それを作成するべく準備を進めている。BGA(British Gliding Association) のインストラクターマニュアルを参考に、国内事情に適合したマニ

アルを作成することを目的とする。現在前段階として、有志が翻訳を進め、翻訳としては最終段階に達している。

次の段階では、国内の練習生とインストラクターおよびトレーニング実態、必要とされる改良点などの把握と対応が必要になると予想される。最終的には、日本滑空記章制度、上級滑空機自家用操縦士試験、さらには安全対策などとリンクするものとする。

3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

3.1 競技会主催

現在実施していない。将来、日本滑空選手権をFAIカテゴリー2で開催し、その中からWGC出場選手を選び、ナショナルチームとして参加することを目標とする。

3.2 競技会後援:協会規程に基づいて、国内滑空競技会の後援を行う。(事務局)

*銅章レベル、あるいはそのクラスで最高の滑空スポーツ競技会:日本滑空協会賞授与

- ・第50回全日本高等学校滑空選手権大会第1部 7/28-7/30 於妻沼滑空場
団体 優勝 慶應義塾高校、2位 日本航空学園(石川) 3位 日本航空学園(山梨)
個人 優勝 松本健吾(慶應)、2位 柿原祥幸(石川)、3位 岸涼太(山梨)
開会式、閉会式に甲賀常務理事出席
- ・第20回東京六大学対抗グライダー競技会 9/3-9/10 於妻沼滑空場
団体 優勝 慶應義塾大学、2位 東京大学、3位 明治大学
個人 優勝 葉山智弘(慶應義塾)、2位 山崎大輔(慶應義塾) 3位 高橋春風(法政大学)
開会式に佐志田理事、閉会式に甲賀常務理事出席
- ・第20回全日本学生グライダー新人競技大会 9/25-9/30 於木曾川滑空場
団体 優勝 慶應義塾大学、2位 名古屋大学、3位 東京大学
個人 優勝 武藤祐貴(慶應義塾)、2位 細木雄斗(名古屋大学)、3位 安達太祐(慶應義塾)
閉会式に甲賀常務理事出席
- ・第46回早慶対抗グライダー競技会 2/23-2/28 於妻沼滑空場
団体:優勝 慶應義塾大学
個人:優勝 山崎大輔(慶應義塾)
甲賀常務理事開会式出席、吉田監事閉会式出席
- ・第58回全日本学生グライダー競技大会 3/10-3/17 於妻沼滑空場
団体 優勝 慶應 Discus、2位 早稲田 23 3位 東大 LS
個人 優勝 佐々木昇吾(早稲田)、2位 山崎大輔(慶應義塾)、3位 松村亮汰(慶應義塾)
後藤会長 開会式、閉会式出席。甲賀常務理事 大会参与就任、開会式、閉会式出席

*C章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞授与

- ・第21回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 8/10-8/17 於妻沼滑空場
団体 優勝 青山学院大学 Aチーム、2位 関東千葉工 Jr.チーム、3位 中央大学チーム
個人 優勝 阿部晴太郎(青山学院)、2位 川野慎吾(青山学院)、3位 瀬脇頭(千葉工業大学)
- ・第57回全国7大学総合体育大会 航空の部 3/10-3/17 於関宿滑空場 予定
団体 優勝 東北大学及び東京大学、3位 北海道大学
個人 最優秀選手 脇田伸(東北大学)、2位 船本歩(東京大学)、

3 位 中山珠洲(北海道大学)

*その他(滑空スポーツ記録会等):滑空奨励努力賞授与

・第 13 回おおのローズカップ 5/4-5/6 於大野滑空場

団体 優勝 さぬきうどんⅢ、2 位 ホルコとフェリン、3 位 大野シルバー少年

個人 最優秀選手 樋出 雄司、2 位 矢野 正文、3 位 夏目 匠

・第 35 回久住山岳滑翔大会基本滑翔競技 4/30-5/5 於久住滑空場

優勝 阿部 且(九州大学) 2 位 堀越 未生(立教大学)、3 位 坂本陽一朗

*その他 名義後援

・滝川グライダー競技講習会 2017 名義後援 5/22-6/4 於たきかわスカイパーク

・オンラインコンテスト後援 主催日本グライダークラブ

3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

特になし

4. 法人事業

4.1 会員

*滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、飛行活動からの引退と共に協会からの退会が増加しており、これに対して若年層の会員登録が少なく、世代交代がスムーズに行われていない。会員数が 500 名まで減少している。

* FAI 表彰

エアスポーツメダル 田口 昇 (一社)東海・関西学生航空連盟

*(一財)日本航空協会表彰

航空文化賞 東 昭 (元 JSA 会長)

日本記録樹立 市川朱美 D15 級女性 500km 三角コース速度 121.37 km/h 2017/1/7

市川 展 Open 級一般 1000km 往復コース速度 124.63 km/h 2017/12/23

市川 展 Open 級一般 自由往復距離 1005.21 km 2017/12/23

4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

*公益社団法人化後ほぼ 3 年半経過し、大過なく運営している。会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日削減、各種連絡の郵送からメール化などの経費削減を行っている。ただしマンパワー不足は否めず、現在以上の事業拡大にはマンパワー増加無しには実施困難。

4.3 会議

*理事会: 平成 29 年第 1 回理事会(総会議案策定 5 月 14 日(日))

第 2 回理事会(平成 30 年度事業計画案・予算案策定 平成 30 年 2 月 3 日)

*平成 29 年定時総会:平成 28 年度決算報告承認、事業報告 平成 29 年 6 月 4 日(日)

以上